

JB Customer Report

ORPHIS FT

当社で実際に機械をご導入いただいたお客様の
「生の声」をご紹介いたします!

取材：営業部 営業企画推進課

垂井町立不破中学校様

◆教育目標◆

誠実に生きる人間

『自分にきびしく』自ら考え、判断し、正しく行動する生徒

『他者にあたたかく』互いに認め、励まし合い、感謝する生徒

『共にたくましく』何事にも意欲的に、粘り強くやり抜き、共に向かう生徒

垂井町立不破中学校の事務の川端さんに2023年5月に導入されたORPHIS FT5230についてお話を伺いました。



「大活躍のORPHIS」

本校は垂井町の中でも最も生徒数の多い学校ですので印刷物も多く、初回ORPHIS導入の2016年から約7年間、ORPHISをフル活用し印刷作業時間の削減に役立ててきました。ORPHISはスピード・後処理と他の追随を許さない大変便利な機械ですので、校内の印刷物のほとんどがORPHISに集中し、契約満了の7年目を迎えた頃には機器耐久枚数600万枚を超えた930万枚の使用量となっていました。耐久枚数を超えてからはORPHISに対して負荷が大きくなってきて、入れ替え直前の期間はトラブルが多くなり、ジムブレーンさんに連絡しすぐに駆け付け対応していただき、なんとか延命させていました(笑)

そんな中での待ちわびた入れ替えだったので、新しい機種になったときは嬉しかったですね。やはりORPHISは入替前と変わらず高速印刷、後処理機能が備わっていることもあり凄く頼りにしています。具体的には2カ月に1回教務の先生が職員会の資料で60部ほど作っています。ページ数にすると40ページ超えのホチキス留めの資料なので、ORPHIS導入前は両面印刷から丁合、ホチキス留めまで手作業で1時間くらいかかるていました。現在は15分～20分程度で終えています。定期的にある印刷作業時間が1/3になっていますのでORPHISのおかげで手間や時間が省け、業務の効率化に繋がっていますよ。ただし、大活躍してもらっているからこそORPHISに頼りすぎてしまう部分もあるので印刷に合わせた使い分けも重要であると思っています。機種変更されてもユーザーの声をしっかり反映させながらも、ユーザビリティは変わらないので、前機種と変わらずスムーズに操作ができ、気に入っている点の1つですね。



「リソグラフ（印刷機）との併用」

長年ORPHISを使い、業務の効率化にはかなり役立てることが出来ていますので、次の目標はORPHISとリソグラフ（孔版印刷機）との使い分けですね。前回のFW5230では便利が故に耐久枚数を超えてORPHISにかなり重労働をさせてしまいました。新機種に替わってからは、モノクロ印刷かつ大体今使っているORPHISと同コスト程度（約0.8円）になる2クラス分（約70部）以上からリソグラフで印刷をすることをルール化し、職員内で共有しながらORPHISとリソグラフ、それぞれの長所を活かしながら運用しています。ジムブレーンさんが定期的に報告してくださる印刷機器の使用状況の資料（JB Value System）を見させてもらうと、昨年よりもORPHISへの負担軽減が出来ていそうなので、今後もJB Value Systemで印刷状況を把握させてもらいながら、リソグラフと上手く使い分けしつつ、最適な印刷環境を作っていくたいですね。

「柔軟性の高い印刷物作りへ！」

ORPHISで次に挑戦したい印刷物は、入学説明会の資料を入れる角2封筒です。注意事項等を赤色で印刷し、カラー化による視認性の高い印刷物を作れそうだなと思っています。外注印刷ですと内容の変更や部数の融通が利かない部分がありますが、内製化することによって、急な部数の変更に対応出来たり当日の内容によって記載事項を変えたりすることが柔軟にできるためありがたいですよね。今後もORPHISの性能や機能をジムブレーンさんにお聞きしながら、有効活用していきたいです。

営業担当者の声

この度はORPHISの更新ができ営業担当として嬉しい思います。

不破中学校様と垂井町教育委員会様の双方でORPHISの価値を共有いただき入れ替えをする事ができました。

新しいORPHISはこれまで使用していたものから性能アップしながらも、使い方はほぼ同じですので今まで通り活躍できていると思います。



担当営業：井戸 英明